

# B型肝炎ワクチンの説明書

不活化ワクチン  
皮下注射

B型肝炎とは	B型肝炎ウイルスはヒトの肝臓に感染を起こすウイルスです。乳幼児が感染すると、ウイルスが体から排除されにくく、一部の人は将来、慢性肝炎・肝硬変・肝がんになるおそれがあります。	
ワクチンの種類	ビームゲン 組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）	ヘプタバックスーII 組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
対象年齢	生後1歳未満	
接種回数	3回	
接種間隔	27日以上の間隔をおいて2回。1回目終了後139日以上の間隔をおいて1回。	
ワクチンの副反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。</li> <li>○ 注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。</li> <li>○ 極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群、視神経炎、脊髄炎、多発性硬化症、末梢神経障害等が報告されています。</li> </ul>	
	<p>予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。 その後、東大阪市保健所までご連絡ください。</p>	
受けることができない方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明らかに発熱している人（通常は37.5℃を超える場合）</li> <li>○ 重い急性疾患にかかっている人</li> <li>○ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）をおこしたことがある人</li> <li>○ 母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた人（健康保険適用）</li> <li>○ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人</li> </ul>	
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人</li> <li>○ 過去に予防接種を受けたとき、接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人</li> <li>○ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人</li> <li>○ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人</li> <li>○ このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人</li> </ul>	
ワクチン接種後の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。</li> <li>○ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。</li> <li>○ 接種当日は過度な運動を控え、1週間は体調に注意しましょう。</li> <li>○ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすことはやめましょう。</li> <li>○ 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。</li> <li>○ このワクチンと他のワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</li> </ul>	